

日中友好ボウリング大会

渋谷で友好のストライク!



1回戦の様子。会場は熱気でいっぱい



▶開会式であいさつする蔡紅公使参事官



中国大使館の女性チーム。左から潘林書記官、王晓莹アタッシュ、賀怡蘭書記官、ひとり挟んで張桂波書記官



(公社)日中友好協会、(一社)東京華僑総会、(一社)東京華助中心が日中平和友好条約締結40周年を記念して共同で開催した「日中友好ボウリング大会」が7月28日午後、東京の渋谷ボウリングで開催された。日中のボウリング愛好家約130人が4人1組でチームをつくって参加し、「友好のストライク」を通じて交流を深めた。

大会は34レーンを貸し切り、トーナメント方式の勝ち抜き戦で行われた。4人一組の構成は日中混合など自由。家族や友人、職場の同僚など気の合う仲間同士がチームをつかって参加した。揃いのポロシャツや法被を着て試合に臨むチームも見られた。当日は、東京都ボウリング連盟の方々が進行をサポートした。

開会式では林斯福・東京華僑総会会長が主催者を代表してあいさつし「ボウリングを通じて日中友好を深めよう」と呼びかけた。続いて蔡紅・駐日中国大使館公使参事官らが3チームを編成し出場した。大会が始まると、会場はにぎやかかつ熱気でいっぱい。ストライクやスペアが出ると「好球」(ナイスショット)などの歓声が起こり、チームメイトが駆け寄りハイタッチで祝福した。また、投球の時間には持ち寄りた食べ物や飲み物をつまみながら、対戦相手と自由に会話して交流を楽しむ姿も見られた。試合に敗れたチームは空いているレーン

▲「ナイスショット!」。歓声とともにチームメイトとハイタッチ



揃いのポロシャツで参加するチームも

中国語スピーチコンテスト

都道府県大会の日程決まる

各地の都道府県日中友好協会が主催する中国語スピーチコンテストの日程が決まった。成績優秀者は来年1月13日に協会が東京で開催する第36回全日本中国語スピーチコンテスト全国大会に推薦される(審査あり)。詳細は協会のホームページに掲載中の「全国大会出場までの流れ」を参照。

協会名	実施日	会場
1 北海道	10/14(日)	北海道立道民活動センター
2 宮城県	10/27(土)	東京エレクトロンホール宮城
3 茨城県	10/7(日)	駿優教育会館
4 栃木県	10/13(土)	宇都宮大学峰ヶ丘講堂
5 埼玉県	10/14(日)	浦和コミュニティセンター
6 千葉県	10/6(土)	千葉市民会館特別会議室2
7 東京都	10/14(日)	リフレッシュ氷川
8 神奈川県	10/14(日)	地球市民かながわプラザ
9 長野県	10/6(土)	信濃教育会館
10 富山県	10/20(土)	富山県中小企業研修センター
11 福井県	11/3(土)	福井県国際交流会館
12 静岡県	10/14(日)	静岡文化芸術大学 大講義堂
13 愛知県	10/27(土)	愛知工業大学 自由ヶ丘キャンパス
14 三重県	10/14(日)	三重県教育文化会館多目的ホール
15 大阪府	10/28(日)	大阪スカウト会館
16 兵庫県	10/21(日)	神戸市教育会館
17 奈良県	10/28(日)	奈良女子大学
18 和歌山県	10/28(日)	中央コミュニティセンター多目的ホール
19 山口県	11/3(土)	下関市勤労福祉会館
20 佐賀県	8/18(土)	佐賀県立生涯学習センター(アバンセ佐賀)
21 熊本県	10/13(土)	熊本市国際交流会館(交流ラウンジ)
22 大分県	10/20(土)	コンパルホール大分
23 鹿児島県	9/30(日)	宝山ホール

※記載の無い県は、他県にて受付をしている場合がある(オープン参加)。詳細は(公社)日中友好協会中国語スピーチコンテスト係まで

交流会は楽しい
マイボール持参の上西さん

(一社)在日上海経済文化交流促進会チームのメンバーで、日頃はファッションブランド店を営む上西恵美さん(写真下)はマイボールを自由に好きなだけゲームができた。大会後の表彰式では優勝チームに中国大使館賞が贈られた。その後は会場を移して記念レセプションが開催され、主催者を代表して協会の岡崎温理事長が大会を総括した。さらに協賛団体・企業から提供された数多くの賞品をかけての大抽選会も行われ、大いに盛り上がった。参加者と関係者たちは大会の成功を祝い、さらなる日中友好の発展を願って乾杯し、和やかに懇談した。

記念レセプションの様子

- 主催 (公社)日中友好協会、(一社)東京華僑総会、(一社)東京華助中心
- 後援 駐日中国大使館、(公財)日中友好会館、中国文化センター、横浜華僑総会、(一財)日本青年館、(一社)東京和僑会、日本青年団協議会
- オフィシャルスポンサー 株式会社維新、ハモニカキッチン、(株)オラス、(株)ラオックス
- 協力団体 東京都ボウリング連盟、全日本華僑華人連合会
- 協賛企業 全日本空輸(株)、(株)ニッセイ、(株)廣記商行、中国料理 龍鳳、新光貿易(株)、新橋亭、謝甜記、中華街 柱宮、協同組合 日本華僑経済合作社

鬼が来た!



原題: 鬼子來了
監督: 姜文(チャン・ウェン)
製作年: 2000年
DVD販売元: ジェネオンエンタテインメント(2002年発売)
時間: 140分

日本軍の凶気を描いたショッキングな映画

予想通り観客は年配の人ばかり。若いカップルは1組もない。しかしこれではダメだ。このような作品を、例えば大学祭で上映して大討論会を開く等のイベントが必要ではないだろうか。若い人たちがこのような映画を観て、歴史を学習し考えることが必要ではないか。そんなことを考えさせられたショッキングな作品だった。

カンヌ国際映画祭グランプリを受賞、新聞紙上でも再三取り上げられた話題作だ。何が話題かというと、日本軍や日本軍人が犯した凶気を描いた中国映画という点。だが日本のメジャーな映画館では上映されず、マイナーな映画館のみで公開。私が観たのも某マイナー館だった。舞台は中国の華北、万里の長城の近くにある寒村で、時は日本が敗戦を迎える半年前のこと。映画は日本軍の軍艦マーチでの行進から始まる。日本軍に媚を売る村人たちが、彼らはそうして占領下で何年間も生きてきたのだ。ある日、美人のユイア(姜鴻波)と「お楽しみ」中の村人マー(姜文)の部屋にいきなり「私」があらわれた。「私」はマーにピストルを突きつけた。がら部屋に入り込み、「目をつぶれ」と命令、そして「荷物をしばらく預かっておけ。日本軍

に見つかったらお前たちの命はない!」ときた。マーは恐怖の中、やむなくこれをOKしたが、麻袋に入った2つの「荷物」は何と一人は日本軍人、花屋小三郎(香川照之)、一人は中国人の通訳だった。いたるところに凶気があらわれ、マーやユイアル、そして村の長老はじめ多くの脇役たちが必死でしゃべる中国語にも、ものすごい迫力がある。みんな生きていくことに必死なのだ。観終わった後はグッタリと疲れてしまう。何ともやりきれない思いだ。この映画は作り話であり史実を再現したものではない。しかし、これと同様のことがあちらこちらであつたらどうだろうか。これは容易に想像できる。

熱血弁護士 坂和章平 中国映画を語る(19)



(さかわ・しゅうへい)
1949年愛媛県松山市生まれ、大阪大学法学部卒。都市開発に関わる訴訟を数多く手がけ、日本都市計画学会「石川賞」、同年に日本不動産学会「実務著作賞」を受賞。坂和章平の中国映画大観(2004年、ナニワのオッチャン弁護士、社)日中友好協会参事、NPO法人大阪府日中友好協会会員。